

2026年 高知県労福協 新年あいさつ

新年おめでとうございます。皆さま方におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。日頃から高知県労働者福祉協議会の運動に対してあたたかいご支援をいただいていることに心から厚く御礼を申し上げます。

さて、社会の分断と対立、格差の拡大と貧困の深刻化、人口減少の加速化、賃上げを上回る物価高とあらゆる職場での人手不足等々、働く者・生活する者を取り巻く環境は厳しさをより一層増しており、このような時だからこそ、「支え合い・助け合い」の精神をこれまで以上に大切にしていかなければなりません。

労福協では「福祉はひとつ」という考えを大切にしながら、「つながる・寄りそう・支え合う」をキーワードに、引き続き労働団体・福祉事業団体をはじめ会員組織や地域の方々と連携を図りながら、安心して働き暮らせる社会をめざして尽力していく所存であります。

2026年におきましても、高知県労福協の取り組みへの絶大なるご支援・ご協力をお願い申し上げ、新年にあたっての挨拶といたします。



一般社団法人高知県労働者福祉協議会
会長 池澤 研吉



2026年 こうち食支援ネット 新年あいさつ

新年明けましておめでとうございます。

常日頃より労福協の構成組織の皆様には、「こうち食支援ネット」の諸活動に対して変わらぬ温かいご支援・ご協力をいただいておりますことに、心から感謝を申し上げます。

おかげ様で「こうち食支援ネット」の活動も5年目を迎えました。この間、「食材を集める」「集めた食材を支援活動に活用していただく」フードバンク事業を中心的な取り組みとしながら、年1回の交流イベントの開催など「食支援にかかわる方々とつながる、つなげる」連携活動についても力を入れて取り組んできました。本当に多くの皆様から力強いご支援をいただき、2025年2月には認定NPO法人格を取得することができ、食支援の輪は確かに広がっていることを実感しているところです。

一方で、物価高騰が国民生活を一層苦しめ続けています。その影響は私たちの食支援活動にも及んでおり、ずっと右肩上がりが増えてきた提供いただく食材の量は2024年度から減少に転じ、2025年度は一定盛り返していますが、2023年度の総量には及ばない見通しです。食材を受け取りに来られる登録

団体が着実に増える中での総量の減少ですので、それぞれの登録団体の期待に十分にこたえられない状況が続いており、心苦しく思っているところです。

食支援の重要性は一層高まっており、2026年はこうち食支援ネットの取り組みは真価が問われる年となると考えています。課題は山積しています。会員拡大や食支援活動への協力要請など外に打って出る活動に積極的に取り組んでいくとともに、ロジ拠点（食材の大量提供への対応が可能となる「大規模食材保管場所」の確保）、「ハブ拠点（地域における食支援の拠点）づくり」に向けて、これまで以上に多くの団体・個人の方々と議論や連携の強化をはかってまいりたいと決意しているところです。

今後ともの労福協の皆様の一層のご支援・ご協力をお願い申し上げ、新年のあいさつとさせていただきます。本年もよろしくお願いいたします。



こうち食支援ネット
理事長 折田 晃一

西部労福協 第43回研究集会を開催

持続可能な社会

2025年11月6日(木) 山口県山口市「かめ福オンプレイス」において、中四国9県の地方労協、事業団体、労働団体69名の参加で開催、高知県労福協より5名が参加しました。



講演 I

Well-beingな暮らしにつながるDXとは？

山口大学国際総合科学部 杉井 学 教授



講演では、先ず「Well-being」について、「善いあり方」と訳されたり、世界保健機構(WHO)において、「肉体的にも、精神的にも、そして社会的にもすべてが満たされた状態にあること」を指しており、今回のWell-beingについては「主観的に、その人が幸せ・豊かと感じている状態」と捉え、人によって幸福や豊かさの程度や対象は異なるため、主観的な感覚と解釈することを前提とされました。「DX」はデジタルトランスフォーメーションで、デジタル技術を用いて販売、業務、管理など既存のやり方を効率化・最適化するために刷新し業務に変革を起こすものとの説明がありました。

現在DXの代表事例としてレジのない小売店、モバイルオーダー、タクシー配車サービス等があり、山口市でも配車アプリやシェアサイクル事業で効率的に運用がされているとのこと。しかし、デジタルが優れて、アナログが劣っている訳ではなく、必要な技術や方法で利用する人や事業に合わせて適用することが重要、目的と手段を間違えないようにしないとシステムを導入することで、業務が煩雑になっては本末転倒と説かれました。

最後に、「DXを高度なデジタル技術と考えず、暮らしを便利に豊かにできる方法として捉えて、大企業や行政が行うものとせず、家庭や生活の中で取り入れて」と推奨されました。

講演 II

持続可能な地域社会の在り方を考える

～人口減少・高齢化と家族の変容の中で～

山口大学経済学部 鍋山 祥子 教授



講演の冒頭、西部労福協の中四国9県の将来推計人口についての統計結果(2023年推計)、年齢別人口割合などの説明があり、高齢化の比率として2025年の推計で65歳以上の割合が高い順番は、2位高知県、3位徳島県、5位山口県、9位島根県、10位愛媛県とトップ10に5県が入っていること、高知県は2025年37.2%から2050年に45.6%と全国上位かつ着実に高齢化が進んでいくことが示されあらためて認識させられました。

地域包括ケアシステムにおける医療のデジタル化について、電子カルテの標準化と情報共有やオンライン診療の普及、医療・介護連携システムの導入など医療のデジタル化は、地域包括ケアシステムの効率化と質の向上に大きく貢献し、ICTを活用することで、医療・介護関係者間の情報共有や連携が円滑になり、より適切なケアの提供が可能となっているとのこと、課題として、医療人材の確保と育成、在宅医療の充実、認知症ケアの向上、医療・介護連携の強化、予防医療の推進があり、これらの課題を解決することで、より効果的な地域包括ケアシステムの構築が期待されます。

最後に、医療・介護・福祉の関係者が協力し、地域の特性に応じた取り組みを継続していき、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられる社会の実現に近づけなければならないと締めくくりました。

中国・四国地域ネットワーク交流会



2025年11月8日(土)～9日(日)、広島市総合福祉センターにて2025年度中国四国ブロック地域ネットワーク交流会・こども食堂フォーラムが開催されました。

11月8日は、ゲスト講演として『NPO法人ふうどばんく東北AGAIN』の副代表理事の富樫花奈氏と高橋尚子氏の講演があり、フードバンク自体がまだ世の中に知られていない頃から活動していたものの遂に活動を続けるのが困難となった時、新聞などで窮地を知った方々から寄付や寄贈が集まり今ではフードバンク事業のみならず、こども食堂をはじめとするコミュニティ事業や生活相談などもおこなっており、まさに人こそ財産であり、人との繋がりの大切さを実感する講演でした。

その後、中国・四国地域ネットワーク交流会として、中国四国各県の地域ネットワーク団体の活動状況の報告があり、こうち食支援ネットも活動状況を報告して1日目が終了しました。

11月9日は、中国・四国こども食堂地域ネットワーク座談会として、こども食堂のエピソードや課題等を座談会形式でトークをし、こども食堂に期待される地域のコミュニティとしての役割や、今後の課題等を各県の代表者が話されました。

その後は、こども食堂フォーラムが開会し『NPO法人広島こども食堂支援センター』の理事長の越智誠輝氏の講演、地元広島のこども食堂の事例発表と続きました。



こうち勤労センターで 消防訓練が開催されました。



11月18日(火) こうち勤労センターで消防訓練をおこないました。

毎年、避難階段のカギに悪戦苦闘ですが、今年はみなさんスムーズに避難ができました。

その後は、高知県危機管理・防災課の方に高知県防災アプリの使い方について学びました。

高知県における過去の災害・風水害の説明のあと、具体的な機能や操作方法について説明を受けました。ここ数年、ゲリラ豪雨など急激に悪化する事態が増加しており、自分に必要な情報をいち早く収集し、「自らの命は自らが守る」という意識で避難行動をとることが必要とあっしやいました。



高知国際高校で労働セミナーを開催!!

2025年11月5日(水) 高知県立高知国際高等学校にて、参加者235名(3年生)で労働セミナーを開催しました。講師には、連合高知事務局長の市川稔道氏をお迎えし、高知県労協が発行する『働く人のためのハンドブック』をテキストとして講義を行いました。

テキスト第1章「働く前に知っておきたいこと」からはじまり、社会人が守るべき基本的なルールや、働きだして困った時の相談先などの話があり、なかでも、ブラック企業についてパワハラ問題等の話を熱心に聞いていました。パワハラ問題の立証は、なかなか難しく、泣き寝入りする側がほとんどだが、そういった時は、周りに味方が必ずいるので、一人でかかえこまず、身近な人に相談することの説明がありました。

最後に、働くことで賃金を得て生活するという事は、当たり前のように思えるが、それが出来ない人も沢山いる。働くという事は社会に参加することであり、社会との繋がりを持つことの大切さが必要だという事を心に留めてほしいとの話があり、講義は終了しました。

今回、参加された生徒の皆さんに、アンケートをお願いしました。下記の内容は、アンケート調査を集約したものになります。また、記述式で回答いただいた、たくさんの気づきや感想があるなか、いくつか抜粋してみました!

学習をふりかえって、 気づいたこと・感じたこと



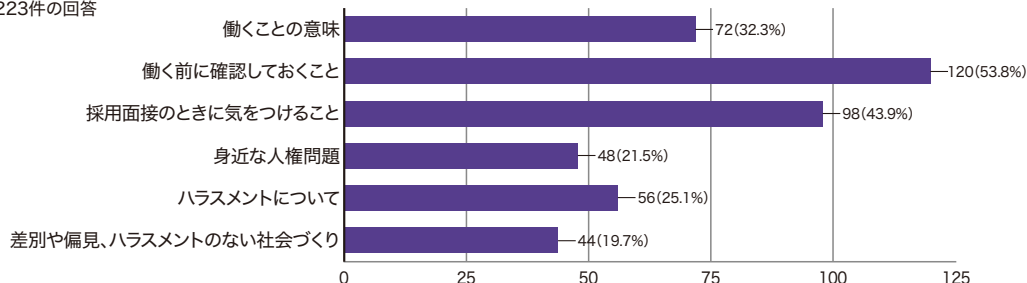
- 労働者として最低の基準(服装・挨拶)を満たせる人になりたいと思った。
- 一人で抱え込まずに身近な人に相談したり、おかしいことや不当な扱いに気づけるような知識をつけておきたいと思った。
- 自分が考えていた以上に労働に関する法整備がされていることに驚いた。
- 退職をするのにも社会的なルールがあること。
- してはいけない質問答える必要のない質問があることを初めて知れました。(面接時)



労働セミナーアンケート調査 (2025.11.5 高知国際高校3年生)

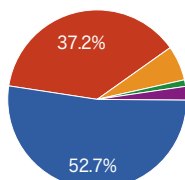
② 「働く前に知っておきたい話」のContentsで興味を持った項目にチェックをいれてください。

223件の回答



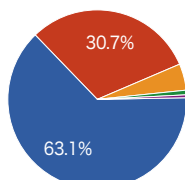
③-1 興味・関心を持って参加することができた。

226件の回答



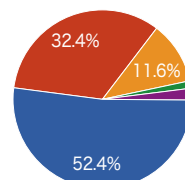
③-2 自分にとってためになる(役に立つ)内容であった。

225件の回答



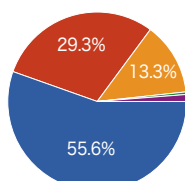
③-3 今後の行動化に向けて意欲を高めることができた。

225件の回答



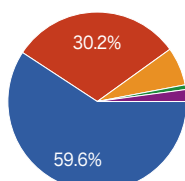
③-4 相手の立場に立って考え、行動する意識を高めることができた。

225件の回答



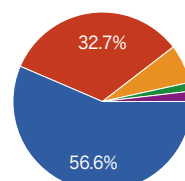
③-5 授業のねらいを自分なりに理解することができた。

225件の回答



③-6 新しい気づきや発見があった。

226件の回答



● あてはまる ● ややあてはまる ● どちらともいえない ● ややあてはまらない ● あてはまらない

『なんでも相談会』を開催!!

2025年11月30日(日) 高知県民文化ホール多目的室にて、弁護士・税理士・司法書士の面談による『なんでも相談会』を開催しました。『なんでも相談会』では、法律、生活、土地、税金、その他くらし全般に関する悩みや相談について専門家のアドバイスが無料(30分間)で受けることができます。今年度は、のべ13名の方が参加され、相談者からは「大変勉強になりました。」「相談内容が多岐にわたっているので、お二人の先生にアドバイスをいただけて有難いです。」「無料相談は助かります。」など、大変喜んでいただきました。

くらしの相談センターでは、来年度も引き続き開催する予定です。面談での相談をご希望の方は、高知県労働者福祉協議会内「くらしの相談センター高知」にご連絡ください。(事務局▶088-824-3583)



くらしの相談

くらしに関する相談(生活・金融・土地・税金・奨学金など)を受け付けています。相談内容に応じて、各専門家にお繋ぎします。一人で悩まず、お気軽にご相談ください。



後日要予約 弁護士、税理士、司法書士等にご相談の場合は、30分間は無料ですが、内容に応じて費用がかかる場合があります。

くらしの相談センター (高知県労福協事務所内)

月曜～金曜(祝日除く) 9時～17時 フリーダイヤル: 0120-629-154



奨学金ガイドブック『奨学金返済Q&A』の無料配布

奨学金の返済に悩んでいる社会人や、これから奨学金を利用することを検討している方を対象に、奨学金ガイドブック「もう悩まないで。奨学金返済Q&A」を無料配布しています。

ご入用の方は、高知県労福協までご連絡ください。

(TEL▶088-824-3583)

改訂版: 2024年10月改訂

スマホからも
見ることが
出来ます!

